

がんの学び舎 in 上川口を開催
みんなが知りたいがんの話



上川口集会所での座談会。幡多けんみん病院副院長らの話を熱心に聞いています。

「がんの学び舎」は、幡多けんみん病院が主催し、集会所など小規模な会場で実施している座談会形式の学習会です。

6月7日に上川口浦集会所で行われた座談会には、74人の参加があり、足の踏み場もないほどの満員状態でした。

この日は、上岡教人副院長と、緩和ケア支援室の大家千晶さんが、がんの予防と治療、患者や家族の心構えなどを分かりやすく説明。参加者からは、「1年に1回の検診がなぜ必要か分かった」「早速検診を受けたい」などの感想が寄せられました。
(保健衛生係)

(株)高知銀行が経済活性化を支援
包括的連携・協力協定を締結

黒潮町は、6月4日、(株)高知銀行と「地域再生・活性化支援に関する連携・協力協定書」を締結しました。この協定は、(株)高知銀行の活力を導入し、お互いの資源をより有効活用することで町の産業振興につなげ、業務の連携・協力により町の経済振興を図ることを目的としています。この協定締結により、町の地域産品の販路開拓や販売促進などをはじめとした、さまざまな地域経済の活性化につながるサポートを受けることができます。なお、連携や協力の具体的な内容は、今後、協議のうえ決定していきます。
(産業推進係)



協定書に調印し、握手を交わす(株)高知銀行の森下勝彦取締役頭取と大西町長。

清流伊与木川を守ろう！
佐賀保育所児童がアユを放流



「アユさん、元気に育ってね」と放流したアユを見守る佐賀保育所の子どもたち。

佐賀地域を南北に流れる伊与木川で、5月29日、アユの放流が行われました。「佐賀の伊与木川を守る会」(西村策雄会長)が主催し、昨年に続き2回目。会員のほか、佐賀保育所の年長・年中の児童37人と児童保護者、建設業者らが参加し、体長約10センチの稚アユ約1800匹を放流しました。

同会は、伊与木川の環境と川に住む生物の保護を目的に、平成25年度に発足したボランティア団体で、約75人が活動しています。放流したアユは、会費と町内で工事を行っている建設業者9社の寄付により購入しました。

震災復興支援グループ「きぼう」
町内2保育所へ救命胴衣寄贈

5月上旬、宮城県仙台市の震災復興支援グループ「きぼう」と、活動に賛同するジオ・サーチ株式会社、ダイセル労働組合より、黒潮町内の保育所に救命胴衣(園児用90着、大人用5着)が寄贈されました。「きぼう」との縁を取り持つてくれたのは、宿毛市や黒潮町で柑橘を栽培している久保悟さん・小夜子さん。平成24年から東日本大震災の被災地の仮設住宅や団体に小夏などを送っています。6月3日に行われた感謝状贈呈式には、久保さん夫妻と、久保さんの畑がある出口地区の西村節男区長が出席しました。



救命胴衣が配備された佐賀保育所と南部保育所では、久保さんと園児が記念撮影を行いました。